

学生の社会的活動報告

森田地区活性化プロジェクト

生活デザイン専攻 2回生 高島 璃奈

私たちは、卒業研究で森田地区活性化を目標に活動しました。森田地区はまちづくりが進み、将来2万人近くの人々が住むことが予想されています。地区の北東部には北陸新幹線が通るようになり、より一層森田地区の魅力を向上することと、新旧住民の交流を促進することが課題となっています。

そこで私たちは、課題解決にむけて4つの取り組みにチャレンジしました。1つ目は16年前に作られた『森田音頭』を子供や若者向けにアレンジした『Neo MORITA Ondo』で新旧住民を繋ぐ企画。2つ目が「もりた夢駅」の企画の充実による公共交通機関への関心の向上。3つ目が駅の利便性と魅力の向上を図るための駅周辺整備構想の提案。そして、最後に動画による森田地区の情報発信を行いました。

取り組みを通じて、多くの方々に協力していただき、森田のまちづくりが次の展開につながるきっかけづくりに多少なりとも貢献できたと考えます。しかし目的を達成したとは言いがたいです。複数の地域課題に取り組んだためテーマが深く、大きいと十分な検討に至らなかった部分もありました。

森田のまちづくりは卒業研究に留まるものではなくこの先も継続していくものであると考えます。今回の私たちの取り組みをきっかけに、来年以降後輩たちが引き継ぎ、住民の方と一緒に取り組むことを願っています。



駅周辺整備構想座談会の様子

坂井市まちづくり協議会 オリジナルキャラクターデザイン 2018

生活デザイン専攻 2回生 野木 彩乃

昨年度、先輩方が13のキャラクターをデザインした第2弾・3地区を私たちが担当しました。今回は磯部地区を私野木、三国木部地区を加畑来夢さんと山田光莉さん、春江西部地区を幅岸礼佳さんがチームリーダーとして活動しました。私自身今回のキャラクターを考えるプロジェクトに参加できてとても良い経験になりました。

地区の魅力をキャラクターとして引き出せるように、磯部地区の方との意見交換を何度も行い、最初のキーワード検索では磯部地区には特別な強みは無く、「表児の米」という一部地域の有名な祭がキーワードとして出たものの、地区全体のキャラクターとしてはどうなんだろうという意見を交わしました。苦労したキーワード提案の中で、磯部地区ならではの「いそべ音頭」「いそべっ子」といった魅力あるキーワードを発見。キャラクターとしてデザインするにあたり抽象的で難しいかなと感じていましたが、1回生の野坂亜鼓さんの表現豊かなデザイン原案がとても良かったです。自分がデザインを選ぶ側になるのは新鮮でしたし、何点かに絞り込むのに大変悩みました。

最終的に音頭を踊る提灯のキャラクターに決定し、私がデータを作成。最終発表は、マスコミの前でとても緊張しましたが磯部地区のアイデアの説明や工夫した点を上手く伝えられたかと思います。プレゼンテーションが苦手な私がこれを機に少し克服できました。最後に、これからもこのキャラクターが磯部地区の活性化に繋がることを願っています。



1月30日に坂井市役所で行われた最終発表会で、デザイン案をプレゼンテーション。

「SNS映え講座」で講師体験

生活情報専攻 澤崎ゼミ

新年度の卒業研究は4月からスタートですが、既にゼミ配属が決まっているので、一足お先に新ゼミ生たちで福井商工会議所主催の「福井の手土産発掘会&会議弁当ご賞味会」に参加してきました。といっても、一般参加ではなく、ミニ講座の講師(司会・アシスタント)としてです。

今年で7回目となるこのイベント、今回はInstagramやFacebook、ツイッターなどのSNSに写真を投稿して、商品の魅力を伝えよう!という企業PR企画があり、そのためのミニ講座を学生たちで実践することになりました。



確かに、SNSを上手に活用しているのは学生のような若い年代です。ということで、学生たちがメインで進行する気軽で楽しいミニ講座となりました。

会場は過去最多となる79社、600人以上のバイヤー(参加者)で賑わっていて、多くのマスコミが取材に来ています。私たちはそのSNS用商品撮影コーナーの入り口で「SNS映えする写真撮影のポイント」というタイトルでミニ講座を担当させていただきました。参加者の方々からも質問などを多くいただき、アットホームな雰囲気の中で講座を進めることができました。ご参加いただいた皆様、貴重な機会を与えていただいた福井商工会議所の皆様、ありがとうございました。



福井から世界とつながるワークショップ

生活情報専攻 澤崎ゼミ チームJ♡Girls



当ゼミでは5つのグループに分かれて活動をしています。その中の1つのグループが、イベント活動をとおしてマーケティングなどを学ぶと同時に、環境問題やフェアトレード、ネパール等の支援に関する研究を行ってきました。この5人のメンバーが、8月19日、26日の2日間「福井から世界とつながるワークショップ」と題して、鯖江市河和田で小学生の親子を対象にしたワークショップイベントを実施しました。



実は、このワークショップを企画した5人のメンバーのうち3人が、2月にネパールへ交流・支援活動に行っています。そこで経験したことや学んだことなどを楽しく知ってもらうために、クイズ形式での講義からスタートです。その後、福井の自然を知ること、地元で採取した松ぼっくりや木の実などを利用してフォトフレームづくりを行いました。フォトフレームも地元河和田在住の木工職人の方に作成していただきました。ネパールから持ち帰った菩提樹の葉を利用した葉と風鈴づくりもおこない、エアコンなどに頼らない涼しさの演出としての風鈴などの工夫を紹介、風鈴の一部にも菩提樹の葉を利用しました。

私たちがこの環境教育のワークショップで伝えたかったことは、世界の空がつながっているように、自然環境にも国境がないこと。ヒマラヤ、ネパールの自然と福井の自然はつながっている。だからこそ、私たちの日々の生活の中で自然環境についてもっと考えて、大事にしていかなければならない。そういう思いがたくさん詰まったワークショップでした。

栄養研究サークル活動報告

食物栄養専攻 2回生 五十嵐 萌恵

6月2日に県総合グリーンセンターで開催されたみどりと花の県民運動大会(フラワーグリーンフェア)で、栄養研究サークル伝統のパウンドケーキの販売を行いました。また、福井しあわせ元気国体では10月6日(福井県営陸上競技場)と7日(福井市スポーツ公園)に、ボランティアとしてパウンドケーキの配布を行いました。プレーンのパウンドケーキ以外にも、ほうれん草やかぼちゃなど野菜を使ったものも作り、野菜が苦手な方にも食べて頂けるように仕上げました。このサークルでの活動で、様々な貴重な経験ができました。特に、国体でのボランティアは50年ぶりに福井県で行われた大会ということで、学生のこの時期に地元開催の大きな大会に関わることができてとても嬉しかったです。選手の皆さんやスタッフの方々を中心に配布を行ったので、自分たちの作ったパウンドケーキが活力や疲れた体の回復に少しでも役に立っていたなら幸いに思います。

沢山のパウンドケーキを作るのはとても大変でしたが、販売を行っている、「美味しかった」「また買いに来ます」というような言葉をかけてもらえて、やりがいを感じました。サークルのメンバーで協力して作り、その自分たちが作ったもので人を笑顔にできることの喜びを知りました。これからは栄養士として、食べる人を笑顔のできるような料理、楽しい食事の時間が提供出来るように努めたいと思います。



じんあいこどものくに

幼児教育学科

日時:平成30年10月27日(土) 9:30~15:30

会場:仁愛女子短期大学 E館・C館



今年も幼児教育学科は大学祭に「じんあいこどものくに」を開催しました。催しは「1A シャボン玉とボールプール、1B のっけのっけ・ごろごろパトパス、1C 水族館・宝探し、2A お祭り(的あて・輪投げ・ボールすくい・ボーリング)、2B サバイバルゲーム(魚釣り・野菜引き)、2C きょうりゅうランド」と決まり、1AはC館1階玄関、他はE館で行いました。



廊下や受付など共有部分の掲示や飾り付けは最小限に抑え、参加者が企画会場にたどり着くことをねらいに、シンプルな案内表示を心掛けました。そうすることで、学生がクラスの催しに集中できると考えたのです。具体的には、学生会通信に載せるために用意した、クラスごとのポスターを20枚程度カラーコピーして、会場に誘う案内板や会場付近の飾り付けに使用しました。

当日は、来場者駐車場が校舎東側に設けられたため、C館からスタートする人の流れができ、C館玄関1Aの催しがE館を主会場とする「こどものくに」のアンテナショップの役割を果たして、例年より多くの人を呼び込むことができました。子ども331名、おとな252名、計583名の来場者で、経年比較では、2015年の568名を上回る数であり、その点では大成功と言えます。





学生たちも実際に動く中で気づきを得、自ずと学ぶところが多かったように見受けられました。ただ、実行委員会の活動については、役割分担を決めても役割間の隙間を埋める努力が今少し必要であったと思います。たとえば、催しのポスターに含める情報等の規定を実行委員に詳しく説明し、その通り描いてほしかったにも関わらず、クラス内で決めるポスターの描き手にまでは伝わらずに、規定外の仕上がりが6クラス中3クラスにも及びました。スタンプラリーの台紙を作る係とスタンプを買う係を決めても、両者が相談しないとスタンプの大きさが台紙に合なくなります。カードの紐を切る作業も、短すぎる紐が大量にできました。ゴミ袋をクラスに配っても、実行委員が袋の存在をクラス仲間に知らせずゴミ集めを徹底できない、それでは配らないのと同じです。

通信機器が発達しても、伝えようとする心が無ければ伝わりません。人間が人工知能AIに負けないとすれば、心と頭のきめ細やかさであり、一人ひとりが常に思考し判断し行動していきたいものです。次年度は更に充実した「じんあいこどものくに」が実施されることを願います。
(文責 前田敬子)



ハーモニーホールふくい ふるさと子どもコンサート
すてきなおねえさんのたのしい童謡とわらべうた
～手遊びとともに～

日時 平成31年1月29日(火) 午前11時 開演
場所 福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい大ホール
出演 仁愛女子短期大学幼児教育学科 60名
当日の参加者／福井県内の幼稚園・保育園・こども園 21園・11個人(乳幼児とその保護者の方)・646名。(インフルエンザによる減数は5園・4個人・186名)



●幼児教育学科1回生 垣内 梨紗子

子どもの前で歌うという経験がなかったので不安でしたが、たくさん練習したのであまり緊張せず楽しく歌うことができました。わらべ歌遊びの時には間近で子どもの様子を見ることができました。手遊びはしている子としていない子がいました。保育者が楽しそうにしているのを見て真似している子どももいました。知らないお姉さんがたくさんいて驚いた子もいたかもしれませんが、私はやってない子にも楽しんでもらおうと笑顔でやることを心がけました。

楽器体験ではハープを担当しました。見たことのない楽器に興味津々の姿、音が出て嬉しそうな姿、楽器が重くても頑張って持つ姿。様々な姿を見ることができました。

このコンサートを通して音楽は子どもに親しみがあるものだと分かりました。今後、歌やピアノについてももっと学びたいと思いました。

